

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500362		
法人名	有限会社サン・ラポール鶴見		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	大分県佐伯市鶴見地松浦1462-4		
自己評価作成日	令和3年3月20日	評価結果市町村受理日	令和3年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年4月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が出来ることを見つけ、できる限りやっていただく。一人一人の生活のペースに合わせて生活していただくように心がけている。利用者様に笑顔になっていただけるように、たくさん会話をし、たくさん関わろうと努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・開所1年目の新しい施設で、利用者本位のケア実現に向けスタッフ全員が生き生きとしている。
 ・鶴見の海を眼下に望み自然豊かな環境である。
 ・一人一人のリズムに合わせた支援が行われており、ゆったりとした時間が過ぎている。
 ・職員は向上心があり研修の機会があれば勉強したいと思っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体の理念である「家族のように、我が家のように、ゆっくり、一緒に、楽しく笑顔で過ごせるように…」を常に念頭に置き、利用者様のペースに合わせた介護に努めている	理念を玄関に掲示しており、職員全員利用者本位のケアに努めている。時間にとらわれず、ゆっくりと利用者のペースに合わせて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が外気浴や散歩で外に出られた際には地域の方への挨拶をしたり、会話を楽しんでいる。地域の保育園、幼稚園、小学校から訪問に来ていただいたり、芋ほりに来て利用者様との交流を楽しんでいただいている。	散歩しているとき近所の人と話をしたり、野菜をもらったりして、普段より地域とのつながりを持つようとしている。コロナ禍で施設も地域も行事が中止になっているが、再開されれば交流も復活させたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところ、施設の中で試行錯誤している段階である為、何もできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回利用者様の状況や施設でどんなことをしているのか(行事、日常的なこと)を説明し、参加者の意見を聞いたり、話し合ったりして、サービスの向上につなげている。	今年度は1回のみ開催された。あとは資料を委員に送付して意見をもらっている。今後は市へ参加を呼びかける予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入院時の申し送りは利用者様がスムーズに入院生活を送れるように医療機関に日常の様子を細かく申し送っている。	何か疑問などあれば直ぐに市に電話で相談している。直接市へ行く事もある。新施設なので色々相談してアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については「切迫性」「非代替性」「一時性」について職員と話している。やむを得ず拘束を行うことになっても、少しでも早く拘束を中止できるように常に話し合い、出来るだけ早期に中止するようにしている。	法人全体での会議で年1回身体拘束をしないケアについて研修をしている。まだ研修が不十分なので、これからも研鑽を積んで身体拘束ゼロの実現を目指している。	玄関の施錠を含めて身体拘束についてももっと深く理解し、事業所の都合ではなく、利用者本位のケアに努めることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の表情、様子、言動に注意を払い、様子が違うときは職員と話し合い、原因を探している。虐待に繋がるようなケアが疑われるときは、上司に報告し、職員と個人的にしっかり話し合いをし、解決改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	業務の合間の時間を活用し、動画や資料を活用しながら制度についてみんなで学んでいる。その中で各利用者様にとって必要かどうかを話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定の際は利用者様やご家族にわかりやすい言葉で説明し、納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉を聞き逃さず、声をかけ気持ちを聞かせていただくように努めている。出来るだけ要望に沿えるように職員同士で知恵を出し合い対応している。ご家族には面会時や電話をさせていただいたときに、利用者様の様子の報告とともに意見や要望がないか伺っている。	家族には物品を持ってきたときに要望などを聞いている。直通的な電話を設置してほしいとの要望が出ているが実現には至っていない。今後、利用者の写真を撮ったり普段のようすなどを書いたものを家族に送ろうと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の「～だったらいいのにな」というような小さな要望や提案も頭に入れておき、施設内のことであれば改善に向けて動き、運営に関わることであれば、代表者に報告し、反映させている。	職員は要望などあればその都度ノートに書いており、業務中でも聞いている。職員用トイレがほしいとの要望により設置された。有休や休憩時間は取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の努力や実績を把握するために1年に2回自己評価を実施し、評価に生かし、賞与に反映させている。労働時間や出勤日数等職員のライフスタイルに合わせ柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者等と職員のケアの実際や力量について定期的に話し合い、把握に努めている。外部の研修の告知を行い研修を受けることをすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者は積極的に研修会に参加し、同業者と意見交換をし、施設とは違う考え方に触れ、サービスの質を向上させていく取り組みに生かしている。職員にも研修会や勉強会の告知を行い、勧めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階では、利用者様の話をじっくり聞いたり、様子や表情に注意し、不安なことや気持ちを理解することに努めている。必要であれば声掛けや関わりを多くし、新しい環境に早くなじめるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランを作成する前にはご家族の気持ち、要望をお聞きし、プランに生かしている。ご家族に利用者様についての話を聞き、ケアに生かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、入所時にご本人やご家族の今困っていること、不安なことを聞いたり、表情や様子からも今の状況を推測し、ご本人やご家族に確認してこれからの支援の方向を話し合いながら決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、食事の準備、後片付け、洗濯物、散歩、花の手入れ・・・日常の色々な場面で職員と利用者様が一緒に楽しみながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様への対応で困ったり悩んだりしたときはご家族に相談し、力を借りたり、アドバイスをもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が大切にされてきた人や場所を知るところを努め、関係が途切れないように面会や電話での交流ができるように支援している。	家族に電話をかけたり、手紙を出したりしている。誕生日に家族より手紙が届くなど関係が途切れないように努めている。コロナ禍で面会が制限されて知人などとの交流が出来ない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の様子、表情、言動に注意を払い、利用者様同士の交流がスムーズにいくように環境を整えたり、それぞれの利用者様の話を聞き、孤立する利用者様がないように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要とされるのであれば、相談や支援をしていきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話、様子の中で一人一人の思い、希望、意向の把握に努め、職員同士でもどうすれば希望が叶えられるかを話し合っている。実現が難しい場合でも、少しでもご本人の意向に沿えるように考えている。	日々の関わりの中で会話の感じや顔の表情や様子から感じ取っている。生活歴を把握して対応している。受診や入浴時、ゆっくり話をしてわかることがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人のこれまでの生活について、情報を読み解き、把握に努めている。入所後もご本人の話をよく聞き、これまでの暮らしについて理解を深め、施設でもなるべくそれに近い生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で各利用者様の生活のリズムや心身の状態、出来ることの把握に努め、職員同士で話し合い共有し、ケアに役立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○×方式の日々のプラン表によって、利用者様の心身の変化をモニタリングしている。月終わりにはその月の様子について	利用者其々のプランに沿って項目を設定し、出来た出来ないを毎日記入する。担当者はじめ職員全員で利用者の状態を把握しプランに反映している。毎月モニタリングを行い状態に変化があればその都度プランを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って、毎日のケアの内容を○×で記入する表を使用してプランを実行している。○や×の度合いで次回のプラン見直しの際に役立てている。個人の記録については職員には出来るだけ利用者様の言葉を記録に書くように伝えている。記録の大切さを折に触れ話している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様ご本人だけではなく、ご家族の状況や心情にも気を配り、必要であればケアするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の散髪には2か月に1度、外部から美容師さんに来ていただき、散髪を行っている。会話をしながら好みの髪形に仕上げてもらえるとのことで、利用者様には喜んでいただいている。花壇の手入れや散歩の際には地域の方から声をかけていただき、交流を楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医についてはご本人やご家族の希望を聞き、意向に沿うようにしている。入所前からのかかりつけ医については継続して診ていただくように支援している。	入居前のこれまでのかかりつけ医をそのまま利用することができる。往診してくれる医師がいるので、こちらに変わることも出来る。毎月2回往診がある。受診は家族対応であるが、行けない時は職員が同行して結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は毎日のバイタル測定や、様子の観察から異変があれば施設看護師に連絡や相談をし、状態の把握をしてもらう。必要であれば、受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の申し送りは利用者様がスムーズに入院生活を送れるように医療機関に日常の様子を細かく申し送っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時、急変した時、終末期に入ったときにどうしたいかについて、入所時にご本人やご家族と話し合い、意志確認書を作成するようにしている。状況が変化すれば気持ちや意志は変わるので、状態に変化が出たときにはその都度ご家族等と話し、意志を確認している。	入居時に重度化した場合のことについて説明し、確認書をもっている。重度化した場合はその都度話し合っ本人家族が安心して暮らせるよう対応し、希望すれば看取りも行い、入院や入所も選択することができる。	看取りを行う方針であるが、まだ知識や経験が不十分なので今後研修など行って終末期に備えることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は全体会議にて年に1回救急法を学んでいる。また急変時の連絡先や順番について日勤、夜勤それぞれのパターンも文書化して掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は全体会議にて年に1回の集合避難訓練と、消防を招いての通報、消火訓練を行い、避難方法を身につけている。また2月に1回程度施設のみでの避難訓練を行っており、火事や地震が起こった時の行動の仕方等を身につけるようにしている	年1回法人全体で避難訓練があり、1回は消防署との訓練を行っている。利用者も一緒に火災想定での避難訓練を行っている。災害時施設の前の住人が手伝ってくれる。備蓄は本部にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人、考え方、物の感じ方、大切に思う事柄がそれぞれ違うので、一人一人に合わせた声掛けや対応を心掛けている。関わりすぎるのを嫌う利用者様には、関わりすぎず、見守り、必要などところのみ手を貸すようにしている。	一人一人に合ったケアに心掛けている。その人に合った名前の呼び方をしている。プライバシーを守るために居室のドアは閉めており、入室の時はノックをする。部屋には名札が掛かっていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか気持ちや希望を表してくれない利用者様には積極的に会話をし、思いを聞き出すように心がけている。すべての希望を叶えることは難しいがその一部分でも叶えることが出来るように工夫している。(遠方の家族となかなか会えない為、ビデオ通話で話していただく等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の生活のスケジュールはあるが、利用者様の希望があれば、その方のペースに合わせるようにしている。レクリエーションも意向を聞き、無理には勧めていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご本人に選んでいただいたものを着ていただくようにしている。散髪は外部の美容師が来て行うが、職員や美容師がご本人と話し、希望の髪形になるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いで食べられないものがあれば、厨房に相談し、別のメニューに変更してもらっている。食事の前には毎回メニューを発表し、食事を楽しめるように支援している。食事で使うおしぼりやエプロンの準備、汁物の味見、食後の皿洗いなど利用者様と職員と一緒にやっている。	法人の厨房から副食が来る。主食と汁物を施設内で作っている。食事の片付けをしたりおやつホットケーキを焼くなど出来る事を一緒にしている。クリスマスやお正月などに行事食が出る。毎週2回ドリンクバーを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録につけ把握している。必要な量が摂れていなければ、原因を職員同士で話し合い、考え、食事の形態の変更や水分が摂れていなければ、ジュース類を取り入れてみるなど、色々と試している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを一緒に行っている。ご本人ができる部分は出来るだけしていただき、必要な部分だけ手伝っている。一人で出来る方に関して、歯磨きの様子や口臭の有無等の観察を行い、必要であれば、声掛けや仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導するだいたいの時間は設定しているが、その時間にこだわらず各利用者様の様子を観察し、声掛けやトイレへの誘導を行っている。	時間を見てトイレ誘導を行っている。夜間は3,4時間おきにパット交換を行っているが、睡眠を無理に妨げず時間をずらして交換をする。日中はオムツ使用者以外はトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者様の水分量に注意し、少ない方にはジュース等を勧めて、水分量を確保している。排便が無い日数を把握し、便秘時にはナースに相談しお腹の張りや腸の動きを確認してもらい、マッサージをしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり入りたい方、ぬるめのお湯が好きの方、それぞれの好みを把握し、希望に沿うように心がけている。時期によってゆず湯や温泉の素を使用して変化を付けて入浴を楽しんでいただいている。	週2回の入浴である。入浴を拒否する時は時間や職員を変えたりして声をかけている。入浴剤や柚、温泉の素を入れてゆっくりと入浴をしてもらっている。入浴中に1対1で話をして信頼関係が築かれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	暗い方がよく眠れる、居室が温かい方が良い、または逆に布団が軽めの方がよく眠れる方等、それぞれが安眠できる方法を見つけ、夜勤職員同士で共有し、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更、新しく処方された薬があれば、処方された目的や副作用や用法等を連絡ノートに記入し、職員に周知している。その薬の服用によって起こる可能性のあるリスクについても記載し、職員に注意してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設には職員と利用者様が一緒に作った季節の壁飾りがいつも飾られ、利用者様に喜ばれている。一人一人に役割、居場所を作りたいと考え、生活歴や日々の様子から利用者様が得意なことしたいことを探し、していただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「外に行きたい」との言葉があれば、出来る限り、散歩等で施設の外に出させていただくようにしている。現在コロナウイルスのために遠くへの外出はできていないが、状況が落ち着けば、一人一人が行きたいところへ外出が出来るような支援もしていきたいと考えている。	花の苗を買いに一緒にホームセンターに行った。施設の周りを散歩して出会う人と話している。コロナ感染症が落ち着けば昔住んでいた所や思い出の場所にドライブに出かけたいと思っている。外食も行ければいいと考えている。多くの笑顔が見れるのが楽しみである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を手元に持っておきたいという希望を持つ利用者様はおられないが、今後そのような利用者様が入所されたときは、お金が紛失する可能性をご家族に理解いただいたうえで、お金を持っていただくように支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様とご家族が出来るだけ多く電話等で交流ができるように、用件があって職員がご家族に電話をかけた時は用件が終了後、利用者様に変わり話していただいたり、用件が無くても電話をかけご家族との話を楽しんでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁は季節の展示物や利用者様の作品が飾られ、喜ばれている。トイレや浴室や廊下は転倒やけがの危険が無いように整理や掃除を心掛けている。電灯やテレビの音は時間帯によって調節し、居心地よく過ごしていただけるように心がけている。	加湿器や空気清浄機を設置し、換気には常に気をつけている。ホールにはソファやテレビが置かれ、ゆっくりくつろげるようになっている。壁には利用者の作品などが飾られ、季節感のある装飾がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々利用者様同士の関係性によって、テーブルやソファの配置換えをしたりと、居心地よく過ごしていただけるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は職員の都合で整理整頓するのではなく、転倒等のリスクがない限りは利用者様のお任せしている。整理する時は利用者様と一緒にしている。ご自分が作った作品を飾ったり、仏壇や写真を飾ったり、希望に沿うように支援している。	これまで使い慣れた家具や家族の写真、仏壇、テレビなどが持ち込まれており、違和感のない雰囲気となっている。利用者の状態に合わせて床にマットを敷いたり、不必要なものは置かないようにそれぞれに合った安全を考えた部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内を安全に移動できるように環境を整え、自由に歩いていただけるようにしている。またトイレはわかりやすいように大きな文字で表記し、一人でも見つけて行きやすいように工夫している。		